(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3217388号
(U3217388)
(45)発行日　平成30年8月2日(2018.8.2)　(24)登録日　平成30年7月11日(2018.7.11)

(51)Int.Cl.　F I
A45C 7/00 (2006.01)　A45C 7/00 J

評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 6 頁）

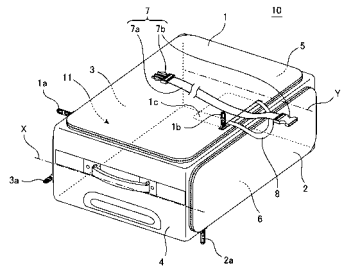
(21)出願番号　実願2018-1918(U2018-1918)
(22)出願日　平成30年5月25日(2018.5.25)

新規性喪失の例外適用申請有り

(73)実用新案権者　506429846
株式会社クギマチ
長崎県佐世保市卸本町６－１
(74)代理人　100168930
弁理士　大坪　勤
(72)考案者　坂根　毅
長崎県佐世保市卸本町６－１　株式会社クギマチ内
(72)考案者　坂根　愛子
長崎県佐世保市卸本町６－１　株式会社クギマチ内

(54)【考案の名称】鞄

(57)【要約】　（修正有）
【課題】安価に且つ簡易な構造により、折り畳み可能で持ち運び容易な鞄を提供する。
【解決手段】上面片４、底面片５、左側面片２、右側面片３、正面片１及び裏面片６を有する鞄であって、正面片には、鞄の胴回りを固定する固定手段（結束ベルト７）と使用者が鞄を把持するための把持手段（持ち手８）とが収納される開閉可能な収納部１ｃが設けられ、上面片及び底面片の各々は折れ目線Ｘ、Ｙを軸に折り畳み可能であり、左側面片及び右側面片の各々は、ファスナー２ａ、３ａにより上面片、底面片及び正面片から取り外し可能である。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
上面片、底面片、左側面片、右側面片、正面片及び裏面片を有する鞄であって、
前記正面片には、当該鞄の胴回りを固定する固定手段と使用者が当該鞄を把持するための把持手段とが収納される開閉可能な収納部が設けられ、
前記上面片及び前記底面片の各々は折り畳み可能であり、
前記左側面片及び前記右側面片の各々は、前記上面片、前記底面片及び前記正面片から取り外し可能であることを特徴とする鞄。
【請求項２】
当該鞄を未使用時には、前記左側面片及び前記右側面片の各々が前記正面片、前記上面片及び前記底面片から取り外されて当該鞄の本体部の内側に折り込まれ、前記上面片及び前記底面片の各々は折り畳まれ、前記収納部に収納された前記固定手段及び把持手段が取り出されるとともに、前記固定手段によって当該鞄の胴回りが固定されることを特徴とする請求項１に記載の鞄。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、スーツケースやキャリーケース等の鞄に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、スーツケースやキャリーケース等の旅行用の鞄が広く使用されている。旅行用の鞄は、主に硬質プラスチック・布又は革で作成され、略直方体の筐体形状をしており、筐体内部に衣類や身の回り品等の荷物を収納することができるものである。このような旅行用の鞄に関し、各種の発明がなされてきた（例えば、特許文献１参照）。
【０００３】
特許文献１には、スーツケースの上カバーと下カバーの連結部をジャバラ構造又はスライド構造にしたスーツケースに係る技術が開示されている。このスーツケースに係る技術によれば、折り畳み時の２倍以上の大きさに伸縮することができ、未使用時にスペースを取らずに収納することができる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１４－２００６１０号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
上記従来技術のように、旅行用の鞄において未使用時の収納性に着目した技術が示されている。しかしながら、特許文献１に開示された技術では、ジャバラ構造又はスライド構造のように複雑な構造となってしまい、製作コストもかかってしまっていた。そのため、簡易な構造により折り畳み可能であることが好ましかった。また、未使用時であっても容易に持ち運び可能な構造であることが好ましかった。
【０００６】
本考案は、上記の点に鑑みてなされたものであり、安価に且つ簡易な構造により、折り畳み可能で持ち運び容易な鞄を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
上記の目的を達成するために、本考案に係る鞄は、上面片、底面片、左側面片、右側面片、正面片及び裏面片を有する鞄であって、前記正面片には、当該鞄の胴回りを固定する固定手段と使用者が当該鞄を把持するための把持手段とが収納される開閉可能な収納部が設けられ、前記上面片及び前記底面片の各々は折り畳み可能であり、前記左側面片及び前

記右側面片の各々は、前記上面片、前記底面片及び前記正面片から取り外し可能であることを特徴とする。

【考案の効果】

【０００８】

本考案によれば、安価に且つ簡易な構造により、折り畳み可能で持ち運び容易な鞄を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本実施形態に係る鞄の一例を示す斜視図である。

【図２Ａ】本実施形態に係る鞄の収納動作の一例を説明する斜視図である。

【図２Ｂ】本実施形態に係る鞄の収納動作の一例を説明する斜視図である。

【図２Ｃ】本実施形態に係る鞄の収納動作の一例を説明する斜視図である。

【図３】本実施形態に係る折り畳まれた鞄の一例を示す図である。

【考案を実施するための形態】

【００１０】

以下、本考案の実施形態について説明する。

【００１１】

［鞄の一例］

図１は、本実施形態に係る鞄の一例を示す斜視図である。

【００１２】

図１では本実施形態に係る鞄の一例であるスーツケース１０を示している。図１に示すスーツケース１０は、正面片１、左側面片２、右側面片３、上面片４、底面片５、裏面片６、結束ベルト７、持ち手８を有する構成である。特に、正面片１、左側面片２、右側面片３、上面片４、底面片５及び裏面片６によって構成されるスーツケース１０の本体部分を、本体部１１という。

【００１３】

正面片１、左側面片２、右側面片３、上面片４、底面片５、裏面片６は、いずれも布又は革等の柔軟性を有する素材で構成されている。結束ベルト７は、ベルト部分７ａとバックル部分７ｂとを有する。ベルト部分７ａは、平たい形状で細長い布や革等の素材で構成されている。バックル部分７ｂは、プラスチック等の素材で構成され、ワンタッチで固定するための一対のバックルである。すなわち結束ベルト７は、スーツケース１０の胴回りを固定する固定手段である。持ち手８は、布又は革等の素材で構成され、使用者がスーツケース１０を把持するための把持手段である。

【００１４】

正面片１は、スーツケース１０の正面を構成し、天板等が内部に収納された長方形状のカバー部分である。この正面片１の周縁に配設されたファスナー１ａによって上面片４、左側面片２、底面片５及び右側面片３に開閉可能に接続されている。なお、正面片１の側部略中央には、開閉手段であるファスナー１ｂによって開閉可能な収納ポケット１ｃが設けられている。収納ポケット１ｃは、その内部に結束ベルト７及び持ち手８を収納可能な収納部である。すなわち、ファスナー１ｂを開閉することによって、結束ベルト７及び持ち手８を取り出すことが可能になる。

【００１５】

左側面片２は、スーツケース１０の左側面を構成する長方形状のカバー部分である。この左側面片２の周縁のうちの上面片４側、正面片１側及び底面片５側の周縁には、これら上面片４、正面片１及び底面片５と接続するためのファスナー２ａが取り付けられている。ファスナー２ａを開閉することにより、左側面片２は、上面片４、正面片１及び底面片５から取り外し可能（着脱可能）となっている。なお、この左側面片２と裏面片６とは一体的に接続されている。

【００１６】

右側面片３は、スーツケース１０の右側面を構成する長方形状のカバー部分である。前

述の左側面片２と同様に、この右側面片３の周縁のうちの上面片４側、正面片１側及び底面片５側の周縁には、これら上面片４、正面片１及び底面片５と接続するためのファスナー３ａが取り付けられている。ファスナー３ａを開閉することにより、右側面片３は、上面片４、正面片１及び底面片５から取り外し可能（着脱可能）となっている。なお、この右側面片２と裏面片６とは一体的に接続されている。

【００１７】

上面片４は、スーツケース１０の上面を構成する長方形状のカバー部分である。この上面片４には使用者が当該スーツケース１０を把持するための把持部やハンドル等が設けられる。この上面片４と裏面片６とは一体的に接続されている。この上面片４は、折れ目線Ｘを軸に折り曲げ可能となるように、折れ目線Ｘを境目にして上下が分割して縫製される。すなわち、この上面片４は、正面片１（又は裏面片６）に平行に形成された二等分線である折れ目線Ｘを介して、二つ折りに折り畳み可能である（図２Ｂ参照）。

【００１８】

底面片５は、スーツケース１０の底面を構成する長方形状のカバー部分である。この底面片５には当該スーツケース１０を運ぶためのキャスター（不図示）等が設けられる。この底面片５と裏面片６とは一体的に接続されている。この底面片５は、上面片４と同様、折れ目線Ｙを軸に折り曲げ可能となるように、折れ目線Ｙを境目にして上下が分割して縫製される。すなわち、この底面片５は、上面片４と同様、正面片１（又は裏面片６）に平行に形成された二等分線である折れ目線Ｙを介して、二つ折りに折り畳み可能である（図２Ｂ参照）。

【００１９】

裏面片６は、スーツケース１０の裏面を構成し、底板等が内部に収納された長方形状のカバー部分である。この裏面片６は、上面片４及び底面片５に一体的に接続されている。

【００２０】

以上に示す構成により、本実施形態に係るスーツケース１０は、正面片１、左側面片２、右側面片３、上面片４、底面片５及び裏面片６によって構成される本体部１１を備え、上面片４、底面片５及び裏面片６は一体的に接続されており、左側面片２及び右側面片３は、それぞれファスナー２ａ、３ａを介して正面片１、上面片４及び底面片５から開閉可能となっている。また、正面片１には、ファスナー１ｂによって開閉可能な収納ポケット１ｃが取り付けられており、収納ポケット１ｃの内部には結束ベルト７及び持ち手８が収納されている。

【００２１】

［鞄の収納動作の一例］

図２Ａ～図２Ｃは、本実施形態に係る鞄の収納動作の一例を説明する斜視図である。以下、図２Ａ～図２Ｃを用いてスーツケース１０の未使用時の収納形態の一例を説明する。なお、以下の説明において、前述（図１）と同様の構成要素については同一の符号を付して適宜重複する説明を省略する。

【００２２】

図２Ａでは、左側面片２のファスナー２ａ及び右側面片３のファスナー３ａを開いて、左側面片２及び右側面片３が正面片１、上面片４及び底面片５から取り外されて開いた状態を示している。その後、左側面片２及び右側面片３を、スーツケース１０の内側（図中の矢印方向）に折り込む。

【００２３】

図２Ａから図２Ｂに進んで、図２Ｂでは、左側面片２及び右側面片３がスーツケース１０の内側に折り込まれた状態を示している。その後、上面片４及び底面片５が、それぞれ折れ目線Ｘ、Ｙに沿ってスーツケース１０の内側に向かって折り畳まれる。

【００２４】

図２Ｂから図２Ｃに進んで、図２Ｃでは、上面片４及び底面片５がスーツケース１０の本体部の内側に折り畳まれた状態を示している。その後、正面片１のファスナー１ａを開

き、収納ポケット１ｂに収納された結束ベルト７及び持ち手８が取り出されるとともに、結束ベルト７のベルト部分７ａをスーツケース１０の胴回りに延設させた上で、一対のバックル部分７ｂによって固定する。

【００２５】

［鞄の収納形態の一例］

図３は、本実施形態に係る折り畳まれた鞄の一例を示す図である。

【００２６】

図３では、前述の図２Ａ～図２Ｃに示す各工程を経て折り畳まれたスーツケース１０を示している。図３に示すように、本実施形態に係る折り畳まれたスーツケース１０は、スーツケース１０の本体の幅厚が薄くなっており、簡易な構造で未使用時の省スペース化を実現することができる。これは、特に、上面片４及び底面片５が折り畳まれる簡易な構造により実現される。また、結束ベルト７によって胴回りが固定され、持ち手８により容易に持ち運び可能である。以上説明してきたように、本実施形態によれば、安価に且つ簡易な構造により、折り畳み可能で持ち運び容易なスーツケース１０を実現することができる。

【００２７】

以上、本考案の一実施形態について説明したが、上記実施形態は本考案の適用例の一つを示したものであり、本考案の技術的範囲を上記実施形態の具体的構成に限定する趣旨ではない。

【００２８】

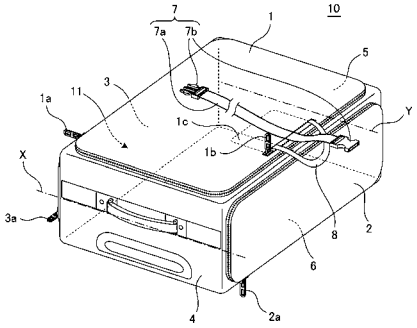
例えば上記説明においては、スーツケース１０の胴回りを固定する固定手段として結束ベルト７を用いた形態について説明してきたが、この場合に限定されるものではない。例えば、マジックテープ（登録商標）等の他の固定手段を用いても良い。

【符号の説明】

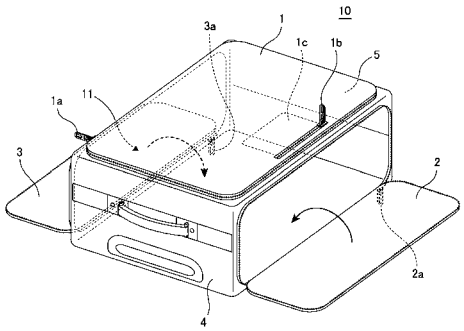
【００２９】

１　正面片
１ｃ　収納部
２　左側面片
３　右側面片
４　上面片
５　底面片
６　裏面片
７　結束ベルト（固定手段）
８　持ち手（把持手段）
１０　スーツケース
１１　本体部

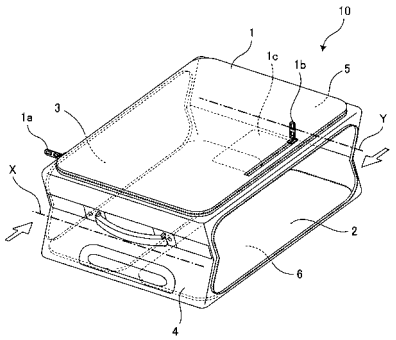
【図１】



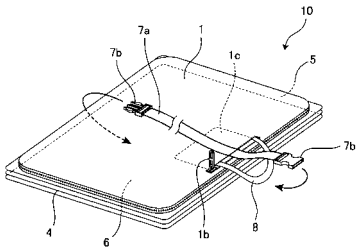
【図２Ａ】



【図２Ｂ】



【図２Ｃ】



【図３】

